第63回岩手県商工観光審議会　議事録

日　時：令和５年12月14日（木）14時から
場　所：エスポワールいわて「３階特別ホール」

１　開会

（齋藤深雪商工企画室企画課長）
私は、当審議会の事務局を担当しております、商工企画室、企画課長の齋藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。暫時、進行役を務めさせていただきます。
本日は、委員14名中９名の皆様に御出席いただいております。委員の半数以上の出席となっておりますので、岩手県附属機関条例第６条第２項の規定により、会議が成立していることを御報告いたします。
また、審議会等の会議の公開に関する指針に基づき、本審議会を公開することとしておりまして、傍聴を希望する方に傍聴を認めることとしておりますので、皆様御了承をお願いいたします。
委員の皆様の御紹介につきましては、時間の都合上、お手元の資料の出席者名簿、座席表をもって代えさせていただきますので、御了承願います。

２　挨拶

（齋藤深雪商工企画室企画課長）
それでは、開会に当たり、商工労働観光部長の岩渕から御挨拶申し上げます。

（岩渕伸也商工労働観光部長）
岩手県商工労働観光部の岩渕でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
委員の皆様におかれましては、年末のお忙しい中、当審議会に御出席を賜り、厚く御礼を申し上げる次第でございます。
また、本県の商工業、そして観光の振興につきまして、平素から、御指導・御尽力をいただいておりますことに、深く感謝申し上げるところでございます。
県内の経済情勢でございますけれども、物価高騰が長引いて継続しております。非常に多くお話をいただきますのは、産業人材の確保、これに皆さん苦労されているということ。そして、賃上げへの対応。こうした各種の課題がございまして、なかなか経営環境も厳しい状況だと受けとめているところでございます。
県といたしましても、先般、賃上げ対応の直接的な支援になるような補助金なども設けまして、皆様と一緒に何とかこの厳しい状況を乗り越えていきたいと考えております

ので、どうぞよろしくお願いいたします。
　また一方で、新型コロナウイルス感染症の５類移行に伴って、社会経済活動が活発化していることが実感されるところでございます。特に、ニューヨーク・タイムズ紙に盛岡市が取り上げられた効果、そして、さらに本日、奥州市長様にも出席いただいておりますけども、大谷翔平選手のドジャース入団が決まりました。こういう岩手県出身のスポーツ選手の大活躍がありまして、世界中から岩手県が注目され、認知度が非常に高まっている状況ということも感じているところでございます。
　こうした流れは、しっかりとそのチャンスを活かすように、様々な海外展開ですとか、あるいは海外から入ってくるお客様が増えておりますので、そういうお客様に対して、県内の物を買っていただくような、そういう取り組みをしっかりやっていきたいというふうに考えているところでございます。
　本日の審議会におきましては、令和４年度における商工労働観光政策の実績、それから現在策定中であります、みちのく岩手観光立県計画第４期基本計画について、皆様から御意見をちょうだいすることにしておりますけれども、これの議題に限らず、普段の皆様の活動などを通じて、こういうことをしたらいいなとか、こういうことをもっと注目して欲しいとか、自由に幅広く御意見をちょうだいできれば、それを受けとめて、施策に反映していきたいと考えておりますので、忌憚のない御意見をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

３　議事
（１）令和４年度の商工労働観光施策の実績について

（齋藤深雪商工企画室企画課長）
　それでは、ただいまから議事に入ります。岩手県附属機関条例第４条第３項の規定により、会議の議長は会長が務めることとされておりますので、これ以降の会議の運営は、髙橋富一議長にお願いいたします。

（髙橋富一会長）
　委員の皆様方、本日は年末の大変お忙しい中、御出席を賜りまして誠にありがとうございます。私、只今紹介いただきました、岩手県商工会連合会会長を仰せつかっております髙橋と申します。
　本日の審議会、２つの議題が提案されてございますので、委員の皆様方には幅広く、忌憚のない御意見をちょうだいできれば、このように思いますので、どうぞ本日はよろしくお願いを申し上げます。
　それでは、着座にて説明させていただきたいと思います。それでは、資料に基づきまして、１つ目の議題として、「（１）令和４年度の商工労働観光施策の実績について」事

務局から説明をお願いいたします。

（齋藤深雪商工企画室企画課長）
　それでは資料１により、令和４年度の商工労働観光施策の実績について御説明いたします。着座にて、説明させていただきます。
　資料１の左上の概要の部分を御覧ください。
　県では、長期ビジョンである「いわて県民計画（2019～2028）」の実施計画として、政策推進プランを作成し、重点的、優先的に取り組むべき政策や、その推進方策を明らかにし、長期ビジョンの実効性を確保しております。
　令和４年度は、第１期政策推進プランの最終年度に当たりますが、本資料は下の図に掲げます 10 の政策分野に付随する 50 の政策項目の中から、商工労働観光部の施策について、取り組みの実績を評価し、現状における課題と今後の方向性を整理したものとなっております。
　それでは、「２　政策分野及び政策項目ごとの課題と今後の方向」について御説明いたします。
　まず、「Ⅲ　教育分野」の地域に貢献する人材の育成については、人手不足が加速する中、ものづくり産業担う人材の育成・確保が課題であることから、各段階に応じた人材育成、連続性のあるキャリア教育の推進、県内企業への就業促進、高度技能者・技術者の育成が今後の取り組み方向となっております。
　次に、「Ⅳ　居住環境・コミュニティ」の移住・定住促進についてですが、コロナ禍を受けて、全国的に移住・定住に関する取り組みが強化されており、本県においても更なる受け入れ体制の充実が課題となっていることから、市町村や関係団体、ＮＰＯなどの官民が連携した移住推進、定住体制の強化が、今後の取り組み方向となっております。
　次に、「Ⅵ　仕事・収入」になりますが、「31」のライフスタイルに応じた新しい働き方を通じた一人ひとりの能力を発揮できる環境づくりについては、地域の担い手不足が懸念される中、効果的なＵ・Ｉターン施策を推進するため、訴求力の高い情報発信や「岩手Ｕ・Ｉターンクラブ」加盟大学と連携した、インターンシップの促進などが、今後の取り組み方向となっております。
　また、本県は、１人当たりの年間総実労働時間が全国平均より長く、年次有給休暇取得率及び賃金水準が全国平均より下回ることから、「いわて働き方改革推進運動」の展開により、デジタル技術を活用した労働生産性の向上や賃上げなど、若者や女性に魅力ある職場づくりの促進が今後の取り組み方向となっております。
　続きまして、右側に移りまして、「32」の地域経済を支える中小企業の振興につきましては、中小企業がコロナやエネルギー価格、物価高騰をはじめとした社会経済情勢の変化に的確に対応するため、商工指導団体と連携し、新分野展開及び業態展開など、経営革新などの取り組みを促進すること、また新たな経営人材の育成が求められているこ

とから、県内の産学官金の連携により設置した「いわてスタートアップ推進プラットフォーム」を核として、起業マインドの醸成や経営能力向上の取り組みなどの推進が今後の取り組み方法となっております。

続きまして、「33」国際競争力が高く、地域の産業・雇用に高循環をもたらすものづくり産業の振興については、自動車・半導体関連産業を中心としたものづくり産業において、デジタル化やカーボンニュートラルなどに的確に対応していくことが必要であることから、中小企業の競争力強化の取り組み支援や、ものづくり産業の一層の集積と高度化の促進、また、若者・女性等の受け皿となる雇用の創出を促進する必要があることから、新規誘致や既存立地企業の業容拡大を図るとともに、県北・沿岸地域においては、地場企業含めた生産性・技術力の向上などの支援が、今後の取り組み方向となっております。

続いて、「34」地域産業を生かした魅力ある産業の振興については、新型コロナウイルス感染症の５類移行に伴い、実店舗販売とネット販売を融合させた販路の構築が重要になっていることから、ＥＣモール出展やＥＣサイトの活用など、オンライン販売進出の支援や展示販売イベントなどの県産品の展示販売機会の確保、また、海外展開に関しましては、円安基調を背景に商談会や販促機会の創出が必要となっていることから、商談会フェアを通じ県内事業者の海外進出や展開支援が、今後の取り組み方法となっております。

最後に「35」の地域経済に好循環をもたらす観光産業の振興につきましては、観光需要の変化や多様化する旅行者ニーズに対応した、地域づくりの一層の強化が求められていることから、マーケティング分析に基づいた観光商品造成やコンテンツの磨き上げを行うこと、また、ニューヨーク・タイムズ紙の掲載などを契機にインバウンド事業が回復していることから、対象市場・地域の特性を捉えた戦略的なプロモーション展開、旅マエ、旅ナカにおける情報発信の強化などが今後の取り組み方向となっております。

説明につきましては、以上です。

（髙橋富一会長）

ありがとうございます。只今、事務局から説明がありました。委員の皆様方から御意見を伺いたいと思います。

時間も限られておりますので、お一方３分程度を目途に御発言をお願いしたいと思います。目安の時間になりましたら、鐘で合図をさせていただきますので、円滑な運営に御協力をお願いしたいと思います。

そして、発言につきましては、お配りしております名簿の順番にお願いをしたいと思いますので、始めに小山田委員さんからよろしくお願い申し上げます。

また、御発言に対しての回答につきましては、事務局から随時御発言をちょうだいしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

それでは、始めに小山田委員さんからお願いいたします。

（小山田浩之委員）
県の工業クラブの小山田です。
地域経済を支える中小企業の振興を図りますというところの中で、冒頭でもお話があったとおり、人材確保というのが非常に大切で、今いる人材をどうやって教育し、技能・技術を高めるかというところが中小企業の大きな課題になっているところでございます。
その中で、いろいろ教育に関する助成金は設けていただいておりますが、さらにそこに、もう少し助成額を上乗せした形での取り組みをぜひお願いしたいと感じております。

（髙橋富一会長）
ありがとうございます。続きまして、工藤委員さんよろしくお願いします。

（工藤理沙委員）
八幡平市で「安比塗漆器工房」という漆器販売を行っている工藤と申します。よろしくお願いいたします。
「34」の地域資源を生かした魅力ある産業を盛んにしますというところで、昨年、盛岡広域振興局と一緒になって、「いわての手仕事展覧会」を開催していただきました。
コロナ禍がずっと続いていたこともあり、直接お客様と対面していけない中で、大きな手仕事の直売会というのは、すごく久し振りでした。お客様も思った以上に来ていただき、私たち販売する側もすごく手応えを感じているところでした。
個人だけではなくて、県外からお店をされているバイヤーの方たちも多くいらしていただいて、岩手の良いものを直接買い付けにいらしている方もいましたし、１回に２日間まとめて「いわて」の良いとこ取りで見ていただけるすごく素敵な会だったと思いますので、ぜひ続けて開催していただければと思っております。

（髙橋富一会長）
ありがとうございます。
続きまして、リモートで参加の倉成委員さん、よろしくお願いします。

（倉成淳委員）
奥州市長の倉成でございます。本日はリモートで失礼いたします。
意見ということで簡単にまとめますと、今年は先ほど話題になりましたけど、英語の文字での「ＭＯＲＩＯＫＡ」というのが、あっという間に国際ブランドになったという、そういう年だったと思います。

やはり、この経験をうまく生かした方がいいなと思っていまして、岩手県の観光を例えば、「ＭＯＲＩＯＫＡ」というものと、それからもともとずっと世界遺産で来た「ＨＩＲＡＩＺＵＭＩ」という、２つの国際ブランドを中心にブランド体系を作って、そこにサブブランドとして付けたり、商品として、あるいは計画を作ったりするという。

要するに岩手県としては、この２つのブランドを覚えてもらう、押していくという明確な方針の下に、行動計画を作った方が、受け手として分かりやすいのではないかと思います。

今、平泉町や一関市と話しているのですが、岩手県の平泉遺産 10 か所でどんどん進めていこうと、そういう歴史ストーリーを作れるベースがあるのと、あともう一つは、この前、宮城県の石巻市まで含めた北上川流域の首長会議があったのですが、この川の文化というのをうまく利用できるのではないかということで、そういう国際ブランドを作った中でアクティビティを位置づけるというやり方があるかなと思っています。

それから、北上川というと、その支流として、奥州市は胆沢川を持っていまして、胆沢川については奥州市の西の玄関口の開発ということで、今、アウトドアツーリズムの方を計画して、大手アウトドアメーカーに計画を依頼しています。

これが、この前ドラフトが来まして、非常に素晴らしいなと思っているのですが、奥州湖周辺エリア、市街地周辺エリア、それから種山高原の周辺エリアと分けて、それぞれの機能や活性化すべきプランが入っているのですが、やはり観光・訪問するためには、若い人たちの生業になるようなそういう仕掛けが必要なってくると思います。

ですから、そういうものと関連づけた観光開発、これを国際ブランドとともに、岩手県として推進すべきではないかというふうに考えています。あとは、我々もアウトドアツーリズムのところで少しトライしてみようと思っていることをお伝えしようと思い、発言させていただきました。以上です。

（髙橋富一会長）

ありがとうございます。

続きまして、佐藤智栄委員さんお願いします。

（佐藤智栄委員）

私は、教育の部分に関して「18」の地域に貢献する人材を育てますというところで、私たちが把握しているよりも、すごい勢いで人口減少が進んでいて、働く労働人口を岩手県内で確保し続けられるかというと厳しいと思っています。

そういった中で、私どもの企業は、花巻地域だけではなく、岩手県内の小中学校の社会科見学というのを大体３、４校から５校くらい受け入れているのですが、帰りに大体の学校の先生が話されるのは、こういった会社が岩手県内にあることを知らなかったですということです。

学校の先生を否定するわけではありませんが、学校の先生が企業を知らなすぎる。親も知らなすぎる。工業団地に入っている大きい工場に入れば、息子の人生は安泰だとかですね。

東京に出ても、都会に出ても戻ってくるというようなことも必要であって、働くということの小学校、中学校、高校の教育の中で、１番子どもたちの近くにいる先生たちが岩手県の企業を知らなすぎる、岩手県の基幹産業を知らな過ぎる、だからどうしても県外に出してしまうということも、労働人口の大きい減少につながっていると思います。

そういった中でも、まだまだ時間もあり、やれることもたくさんあると思いますので、岩手県から労働人口を逃さない、県外に出た人は帰って来てほしいということを企業も県も学校も一体としてやれるのであれば、私は労働人口を十分確保できるのではないかなと思っていますので、ぜひよろしくお願いいたします。

（髙橋富一会長）

ありがとうございます。

大変失礼しました。事務局から必要に応じて回答促すことになってございました。

これまでのところで、事務局から何かございましたら、御回答をお願いしたいと思います。

（髙橋利明観光・プロモーション室長）

観光・プロモーション室の髙橋です。倉成市長さんからお話がありました、ブランド化ということで、クレイグ・モドさんの、ニューヨーク・タイムズ紙に盛岡がこのように選ばれました。

これまでの価値とは違う価値を新たに見つけ出していただいたということが、盛岡市、県全体にも非常に大事なことであったなと感じているところでございます。

そういった中で、先ほど市長さんの方からお話のありました、このブランド化という視点は、私どもの方もあまり考えていなかった部分でもありますので、ぜひそういった視点を持ちながら今後検討していきたいと感じました。

もう１点のアクティビティのお話につきまして、本県でも９月 23 日に陸前高田市に新しくモビリアの再整備をさせていただきましたけれども、そういった中でアウトドアツーリズムを行政だけではなく、民間の力も活用しながら進めていくということによって、さらなる価値を見出すこともできますので、若い人にも生業になるようなことというようなお話もありましたが、そういった視点も大事だなと常日頃考えているところでございますので、そういった視点も盛り込みながら進めていきたいと考えているところでございます。

（髙橋富一会長）
　他にございますか。

（三河孝司定住推進・雇用労働室長）
　定住推進・雇用労働室の三河と申します。
　佐藤委員さんからお話のありました、人材育成の件でございます。
　小学生、中学生について、大体のところは社会科見学とか、社会科の環境という時間の中で、地元にある企業には、どういったものがあるのかという学習を進めているということを伺っております。
　県の方でも、テレビ岩手さんが昨年から「ジョブキッズいわて」という、県内の各企業に小学生が行って職場体験をするというようなことを行っておりまして、それをテレビ岩手さんは、10 年間は続けたいと。
　ですので、そういったところで地道に子どもたちの世代から、どんどん体験を通して企業を知っていくということに結び付けることができればと思っていますし、昨年度から県の方では「未来のワタシゴト探究会議」というのを行っていまして、去年はタカヤアリーナで 1 日開催だったのですが、今年は来週、19、20 日とアイーナの方で行う予定にしています。
　何をするかというと、県内の進学を希望する高校生を集めまして、県内の大学の先生方から模擬授業を受けて、県内にある企業がこういうことをしている、ということを覚えて進学してもらう。大学を卒業する時に、県内に戻ってきても就職先としてやりたいことがあるということを知って旅立って行く。そういったことをしておりまして、その中で学校の先生方とかも、去年の感覚だと、こういった企業があったのかという、率直な意見があったというのはそのとおりでございます。
　高校生世代には、そういうお知らせをするとともに、大学生についても、女性が県内を離れるという数が多いので、その女子学生向けの職場、例えば文系だけれども、理系の企業に入って活躍している女性との意見交換とかですね、そういったことを進めています。
　結果としてどのようになっているのかというところまでは、まだ至っていないのですが、事あるごとに企業と学生が出会う場を作るということを進めているところでございます。

（髙橋富一会長）
　他にございますか。

（畠山英司産業経済交流課総括課長）
　産業経済交流課総括課長の畠山でございます。工藤委員から先ほどお話いただきまし

た、工芸品あるいは伝統工芸品の久しぶりだったリアルタイムでの展示販売会「いわての手仕事展覧会」を 11 月に開催させていただきました。

委員も御指摘なさったように、この３年、コロナでそういう直接の販売機会、お客様と直接やり取りするという機会が失われていたということの反動もあったと思いますし、それから盛岡という街が歩いて楽しめる街、ニューヨーク・タイムズ紙にも取り上げられたということで、観光客の入り込み数が国内外、外国人に限らず国内のお客様も非常に増えました。

その観光客の入り込みと連動した形で、イベントをすることが非常に良かったと思っております。ちなみに速報値ではありますが、２日間で 5,200 名弱、あの場の単純な売上額で 400 万円弱という、経済的にも一定の効果があったものと思われますし、委員も御指摘のように、こういう企画は非常にありがたいというお褒めの言葉を我々もちょうだいしたところです。

単に伝統工芸品という枠にとどまらず、観光資源として、連動して取り組んでいくということの大切さを感じましたし、インバウンドも含めて、これは十分に岩手の地域資源になるなと再認識いたしました。

（髙橋富一会長）

ありがとうございます。ほか、ございますか。

（十良澤福志ものづくり自動車産業振興室長）

ものづくり自動車産業振興室の十良澤と申します。小山田委員、それから佐藤委員の方から人材育成・確保というお話をいただきました。

私も、ものづくり分野を中心に人材育成・確保を行っております。特に、佐藤委員の方から学校の先生とか親が知らないという話ありました。これは、今始まったことではなく、ずっとそういうことはありまして、我々も問題意識を持っています。全ての企業を回り切るというのは難しいですが、今、学校の先生を対象にした企業見学会、それから親御さんを対象にした企業見学会も始めております。それから、もう一つ加えて申しますと、単なる企業見学会に終わらないで、それをどのように子どもたちに効果的に発信して行くかということも今年から実験的に始めておりますので、皆さん方に回るのはもう少し時間かかるかもしれませんが、そういう取り組みを少しずつ始めておりますので、御紹介させていただきます。

（髙橋富一会長）

ありがとうございます。ほか、ございますか。それでは御意見をいただくことに続けて参りたいと思います。佐藤康委員さんよろしくお願いいたします。

（佐藤康委員）

岩手県観光協会の佐藤でございます。「35」のところにございますとおり、今年はおかげさまで１月からニューヨーク・タイムズさんの 2023 年行くべき 52 か所の２番目に盛岡市が紹介されておりまして、私ども県内の観光業の方では、大体春先から特に夏休みにかけて、地域で言いますと、欧・米・豪、その辺りのお客様の来館者数が非常に増えたという報告が上がっております。

ただ、ほとんどが花巻空港を利用するものではなく、成田、羽田、その辺りが圧倒的に多くございました。その影響もあると思いますが、宿泊単価と消費単価が花巻に来るお客様よりも高い傾向にありました。

今回のこの影響によりまして、首都圏、それから東北で言いますと、仙台から御利用されるインバウンドの形が徐々に浸透しているというのが事実だと思います。何とかその跳ね返りを受けるような、そういった商品、旅行商品のようなものを作っていただいて。今の段階では、盛岡の表玄関は盛岡駅でございます。インバウンドでも、そこの活用方法をしっかりとするのがよろしいのではないかと思います。

あと懸念される中では、バスの運転手さんが減少しております。これは、本県にとっても教育旅行、体験型、それから観光、そういったものが増えておりますし、エリアによってはコロナ中でも変わらずに来ていただいている。そういった教育旅行や一般の季節ごとのツアーのバスでの輸送に、影響が確実に出ると思います。そういったところを踏まえて考えていただきたいと思います。

それと、先ほど奥州市長様からもお話がありまして、地域に根づいた観光というのが、もうここ数年、他県でも相当進んでおります。観光面では、非常に素材が豊かな岩手県でございますので、ぜひ育てるところは、県の方でも後押しをしていただけたらと思っております。

（髙橋富一会長）

ありがとうございます。では、御回答をお願いします。

（髙橋利明観光・プロモーション室長）

観光・プロモーション室の髙橋です。御意見ありがとうございました。

先ほどもお話ありましたとおり、今現在、海外の便についても復便が進んできているという状況で、１月には、仙台、青森で回復してくるということもありますので、そういったところの活用。本県としては、どこから来ていただいても岩手県内に泊まっていただければ１番ありがたいことでございますので、そういった視点では特にも、花巻空港を利用される際には、さらにもう１泊泊まっていただく可能性もあるということでございますので、両にらみで対応していきたいと考えております。

盛岡駅についても、私は特にニューヨーク・タイムズの関係では盛岡駅さんと２か月

に１回打ち合わせしながら、現状どうなのかと。おもてなしをどうやっていくかと言う話も盛岡市さん含めながら進めていったというところでございまして、この取り組みに今年１年間でこの効果が終わるわけではないと私ども考えているところでございますので、ぜひ来年度も活かしていきたいと考えております。

そして、バス運転手の件は、そのとおりでございまして、バス運転手のみならず、タクシー、宿泊施設もそうですし、様々なところで人手不足というのはございます。そういった中でバスの運転手につきましては、バス協会さんの方と連携して様々な取り組みをしている中で、例えば、県北バスさんの方で体験会をしていただくとか、少しでもこの運転士さんに、こういった形で進んでいるよという理解をしてもらうような取り組みをしているところでございますので、そういった方々をできる限り誘導するような取り組みを進めていきたいと考えております。

最後に、地域に根差した観光ということで、素材が豊かなということで後押しという話でした。そこについては、私どもはそういった取り組みをしていかなければならないと考えておりまして、この後の計画の中にも随所に盛り込んでおりますので、後で御説明させていただきますが、そういった点については観光のコンテンツの磨き上げ、そして、特にも三陸の方にお客さんが来ていただくような取り組みを進めて参りたいと思います。

特に、ニューヨーク・タイムズの関係では盛岡駅までは、外国人の方も来ている。これを県内に波及させることが大事だということでとらえておりますので、ぜひそういった中で皆さんから御意見をいただきながら進めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

（髙橋富一会長）

ありがとうございます。それでは次に新田委員さん、よろしくお願いします。

（新田義修委員）

岩手県立大学の新田と申します。私からは、３つの点について質問したいと思います。まず１つ目は、「18」の地域に貢献する人材を育てるというところですけれども、奥州市の今回の資料にも書いてあるのですが、奥州市で行われている人材の育成すごくうまくいっていると認識しております。とてもうまくいっている部分ですので、ぜひ県北地域を含めた人育育成をさらに進めて行ってほしいと思います。

２つ目は、「24」岩手で暮らす魅力を高め移住・定住を促進しますというところです。先ほど、他の委員の方々が県内の企業の情報が親御さんとか先生にあまり伝わっていないのではないかという御指摘がありました。私は学生を送り出す側として認識しているのは、確かにその面はあるのですけれども、私のゼミ生の課題になるのはそこではなく、待遇の面で他の県、特に東京と比べた時に明らかに差があるところを同

じにするというのは無理としても、もう少し配慮して欲しいなと思っております。同じ仕事をするときのお金の面での待遇の差ということが差としてはっきりありますので、そこをもう少し配慮してほしいと思っております。

また、岩手県は他の県と比べて県民の皆様、県外に出るときに機会があればぜひ戻って来たいという意識をすごく強く持っていると認識しているところです。その点、例えば岩手県人会であるとか、あるいは、様々なイベントの中で、もう少し岩手県として他の市町村の情報を集めた上で、もう少し共通の岩手県のブランドを出していただければと思います。盛岡のように誰しも知っている市はいいのですけれども、個々の市町村の名前を言った時に、どこにあるかをＵターンの人は分かりますけど、Ｉターンの人は多分、私も出身は神奈川ですが、認識されないと思います。

ですので、皆さん、何となくありましたねとか、「小岩井農場」という単語とイメージは何となく皆さんあったとしても、実際にどこですといった時の具体的なところが各市町村だけの取り組みだとなかなか難しいところがあるので、ぜひ岩手県に協力してもらいたいなと。その点、移住・定住のためのデータベースを岩手県が作っているのですけれども、おそらく各市町村の担当の人が使いこなせるというところまで普及していなのではないかと思っていまして、せっかくいいソフトを県で作っているので、ぜひ現場の人に使っていただけるようにしてもらいたいな思っています。

もう一つは、「35」の観光を盛んにするという点、それと他の資料にも書いてありましたけれども、人材育成すごく大事だと、そのとおりだと思います。その点、今日いらっしゃっていませんけども、ＤＭＯの取り組みというのは、これからさらに必要になるのではないかと認識しております。もう少し県の方でＤＭＯの取り組み、資金面を含めてサポートしてあげないと、横の広がりという意味で、八幡平まで広がりましたけれども、奥州市も含むほかの県南の地域にも広げていくというのは、もう少し県の方でサポートしてあげていいかなと思います。

それに関連してですけど、「チャグチャグ馬コ」とか「さんさ」とか、そうした皆が知っている観光のイベントに対して、私、「さんさ」に２年参加したのですが、仕組みとして完成されているのですが、次の人材にどうバトンタッチしていくのかということを考えたときに、馬の頭数、御存知のように半減してしまっていて、このままだと、馬がない「チャグチャグ馬コ」になってしまう可能性もあると思います。資金面でのサポートはすごく大事で、今までは、企業あるいは個人の馬を飼うということに甘えていたところがあると思うのですけれども、もう少し組織的にバックアップする必要があると思っております。

（髙橋富一会長）

ありがとうございます。それでは御回答お願いします。

（髙橋利明観光・プロモーション室長）
　ＤＭＯの取組みというところでございます。資金面も含めてという話もございました。
　県内においては「かまいしＤＭＣ」がかなり突出して、具体的にいい取組をしておりますので、そういった取組を横展開しながら、情報共有を進めながらいきたいと考えております。
　もう一つは、県の観光協会も今候補ＤＭＯになっておりまして、今後そちらの方が登録ＤＭＯになった際に、県内の市町村さんも支援していくような取り組みを進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。
　「チャグ馬」と「さんさ」も、人材育成という点については、私どもも今後、例えば盛岡市さんと連携しながら今どのような形で取り組んでいったらいいのかということで話をしています。今後、このチャグ馬の保存会さんとも打ち合わせをしながら進めていきたいと思っておりますので、今日の御意見を参考にしながら、検討させていただきたいと思います。

（三河孝司定住推進・雇用労働室長）
　定住推進・雇用労働室の三河でございます。先ほど就職に当たって収入面というのがございましたけれど、企業さん側に対して私たちの方ではお願いベースで、少しでも賃金上げて欲しいというようなことをお願いする活動は続けているところでございます。
　県外に出る方々に対しては、給料は確かに岩手の方が低いけれども、出費の部分とトータルで考えてもらうと、広い家に住んで家賃が安いとか、そういった部分のＰＲなどをさせていただいて、実際に生活レベルについては都会にいても変わらないというような話をさせていただいたり、あと東京の方で毎年やっておりますが、移住・定住の相談会に移住経験者を連れていって、実際にお金の面でどうですかとか、困っていませんかというふうな内容について話をしています。
　実際、移住した方については、お金はあまり困っていないと。むしろ、自然がすぐ目の前にあって、30 分以内に色々なところに行けるところに魅力を感じてＵターンしたとかですね。このような御意見をいただいているところでございますので、そういったところを強みに押していきたいなと思いますし、あと今年、９月 30 日に東京で開催した時には 33 市町村全部の市町村が参加していただきまして、県出身者でもＩターンの人でも相談を受けるというような窓口を作ったところでございます。おかげさまで 583 名の参加がありまして、非常に好評だったというところでございます。自分の市町村がこういうところにあって、こういう特徴がある、というようなところをＰＲする機会などについては、様々な場面で進めていければなと思っているところでございます。

（髙橋富一会長）
　ありがとうございます。それでは次に、早野委員さん、よろしくお願いします。

（早野由紀子委員）
　先ほどからも出ております、人材についてなんですけれども、岩手出身者は岩手に対する思いがものすごくあって、遠くに行っても岩手のことを発信したり、大谷選手についてもそうですけれども、常に岩手のことを考えてくれる、そういう人材に育ってはいるんだなという。その、性格とか愛情というものは非常に感じています。
　岩手出身者が例えば東京に行って、株式を上場したり、または、すごく大きく成長されている企業の社長さんになっているということは非常によくあります。ただ、その人たちが例えば、岩手にいたらそこで株式上場できるのかと言ったら、そこに岩手には何が足りないのかな。むしろ何があったら、そこまでぐっと伸びることができるのかなというのは、今後本当に考えていかなければいけないポイントかなと思っています。
　今年は宮古港にも大型客船が入港し、沿岸の方にもプラスのニュース、話題が非常にありました。ただ、やはり盛岡周辺と沿岸では非常に温度差がありまして、内陸はすごく良かった良かったと聞くのですけれども、沿岸の方は首を捻るみたいなことがまだまだあります。その辺の温度格差を、できるだけ無くしてしていけるように、来たインバウンドのお客様を県内各地に広げていきたいということはお話ありましたけれども、ぜひそれを続けていただきたいなというふうに思っています。
　やはり、内陸と沿岸は観光客の入数だけではなくて、実際に求人倍率の差も非常にあります。ただ、人が集まらないのですが、求人倍率も低い。そこが、ものすごく沿岸として困っているところではありまして、3.11 から 12 年経ちましたけれども、当初の計画と随分その差が出てきているような気はしています。その辺の格差と、それからその計画の修正というものを、ぜひ御支援いただければいいのかなと思っています。よろしくお願いいたします。

（髙橋富一会長）
　それでは御回答お願いします。

（小野寺重男経営支援課総括課長）
　経営支援課総務課長小野寺です。まず１点目、お話いただきました県外で活躍している県出身の経営者の方々ということでございますけれども、実際、岩手県出身で県外に出て社長をなさっていて、非常に成長している企業の方々が岩手県の企業支援ということで御協力をいただいていて、売り上げを拡大していく企業を何社増やそうというような取り組みも実際行っていただいております。
　そして、県内においては、今月の 18 日ですかね、東証グロース市場の方に花巻に本店がある「雨風太陽」が上場なさるといったような動きもございますから、県としてもこちらの資料１の「32」のところにも書いてあります、「いわてスタートアップ推進プラットフォーム」を核として、企業マインドの向上や経営能力の向上等の取り組みを促

進していくというようにしておりますとおり、お話いただきました、県出身の活躍なさっている方々、そういった方々から、様々企業成長していく上での必要なこと、それから、行政として必要な支援、そういったところも色々とお話をお聞きしながら、そしてお力をお借りしながら、引き続き、県内の成長企業の誕生促進について取り組みを進めて参ります。

（髙橋利明観光・プロモーション室長）
　観光・プロモーション室の高橋です。宮古港のクルーズ船のお話しと、ニューヨーク・タイムズの内陸から沿岸の温度差があったというお話しと。
　温度差があったという話は、私どもの方でも受けておりまして、どのような形で進めていったら良いかという話し合いをさせていただいているところですが、来年は、１月から３月までの冬季観光キャンペーンの中で、できる限り内陸に来たお客様を沿岸に運ぼうということで、宮古を始め様々な地域の方々が連携して、新しい商品を作っていただいたり、１泊でも多く泊まっていただこうというような取り組みを進めているところでございます。
　そういった取り組みを進めながら、温度の格差を無くしながら、できる限り県内全域にわたるような形に進めていきたいと思っております。

（髙橋富一会長）
　ありがとうございます。続きまして、藤村委員さんお願いします。

（藤村文昭委員）
　岩手県中小企業団体中央会藤村でございます。労働生産性が低いということについて、お話をしたいと思います。
　この労働生産性に関しては、私も何度か言っておりますが、特にＤＸ関連の商工施策はとても重要だと思っています。ただ、このデジタル化推進は、いわゆる中小・小規模事業者にとっては、大変ハードルの高いものだと思います。私ども岩手県中小企業団体中央会では、県の理解も得ながら、デジタル化サポートセンター、これは仮称でありますけれども、この設置のための助成措置をお願いしております。
　このサポートセンターに、地元にいるフリーランス的なソフトウェア人材あるいはプログラム人材を配置することによって、適切な小規模事業所のデジタル化の推進において、適切な費用対効果の判断やどのような投資をしたら良いかを悩んでいる事業者に対して適正・的確な伴走支援が可能だというふうに考えております。
　インボイス制度や電子帳簿保存法などに適用するため、中小・小規模事業者のデジタル化を具体的に進めて、生産性の向上に寄与したいと考えておりますので、今後とも御支援をお願いしたいと思います。

次に、前のこの会合でお話ししているのですが、労働生産性向上の分子の部分、いわゆるそれは価格の部分、利益の部分なのですが、これを上げるということについてお話したいと思います。

岩手県の各商工会議所、それから各商工会の８月の価格転嫁に関する調査結果ですが、あまり転嫁できていないとするのが 52.1%、ほとんど転嫁できていないとするのが 20.8%。この両者を足すと、実際 72.9%が転嫁できないという結果になっております。県内のほとんどの中小・小規模事業者は、その多くが自分のところで思うように値決めができない、いわゆる流通業とか、あるいはサービス業だというふうに思います。今のこのコストアップに対して、本来はサプライチェーン全体で公平にコストアップの分担をすることが必要で、正しく価格を転嫁して賃上げをしていかなければならないと思います。なかなか難しいのですが、ぜひそういった正しい転嫁ができる風土をぜひ醸成させて、持続可能な好循環な経済、そして先ほど県大の新田先生もお話ししましたけど、賃金を上げていくということに関して、更なる御支援をお願いしたいと思います。

（髙橋富一会長）

ありがとうございます。御回答お願いします。

（小野寺重男経営支援課総括課長）

経営支援課の小野寺です。まず１点目のＤＸ関連の支援をするためのセンター機能というようなお話でございますけれども、中小企業の方で賃上げをはじめ、非常に強い経済体制を作っていくためには、生産性の向上というものは不可欠だというのはそのとおりだと思います。

そのための１つの有効なツールとなるのが、やはりＤＸかと思います。そのＤＸをいかに中小企業の方に取り入れていってもらえるか、なおかつ効率的な形で取り入れていってもらえるかといったようなところで進めていく上で、どういうやり方がいいのか様々議論等もしながら、より良い行政、それから支援機関の形というものを作っていく必要があろうというふうに考えておりますので、中小企業団体中央会さんとか、いろんな方々の御意見等もお聞きしながら、また色々と議論して、一緒に検討させていただきたいというふうに考えております。

それから２点目の価格転嫁、これもおっしゃるとおりでございまして、７月 12 日に国とか県とか中央会さん、商工団体、それから労働団体の方々と一緒に、地域経済活性化のための共同宣言をさせていただきました。それによって、適切な価格転嫁等を推進していこうというようなことを目指しているところでございます。

今お話のありました価格転嫁で、非常に大きな労務費がなかなか価格転嫁されないという問題もあるかと思います。それに対して、先月の末の方に内閣官房と公正取引委員会が労務費の価格転嫁に向けたガイドラインのようなものを出しておりますから、やは

り県だけで何とかできる、それから県内だけで何とかできるというような問題でもないと思いますので、そこのところはきちんと国の方とも、連携や調整とか図りながら、国の方に言うべきことは言いながら、きちんとした対応をして参りたいと思います。

（髙橋富一会長）

ありがとうございます。これは最後になりますけども、１つだけ発言させていただきたいと思います。

「32」の地域経済を支える中小企業振興の件ですが、岩手県もそのとおり、よその県もそうですが、人口減少と高齢化の進展によりまして、そしてコロナ禍の影響で、なかなか中小・小規事業者が厳しい状態にあり、まだ回復に至っていないというのが現実でございます。そういうことから、さらなる伴走型支援について、県でもう少し充実した積極的な支援体制をお願い申し上げたいなというのが１つ。

それから、後継者難ということが結構出てきてございます。事業承継等いろいろ進めているわけでございますけども、国の金融機関であります金融公庫さんと商工団体等で事業承継のマッチングの協定書を結んでございますが、まだ岩手県はマッチングした事例はございません。まだゼロです。この前、公庫さんの主催によりましてマッチングのイベントがございました。その中で、３件ぐらい提案等が出たようですが、やはり成約までいただけないというのが現実ですので、その辺についてももう少し後継者の育成とともに、経営支援のあり方を見直しながら、商工団体としても経営革新となるような形を進めて参りたいと思ってございますので、よろしく御指導賜りたいと思います。

（小野寺重男経営支援課総括課長）

まず、最初の商工団体の体制の強化ということに関しまして、様々なところで私どももお話をいただいております。そこに向けて、我々もきちんとこの体制を維持強化していただけるように、様々取り組んでおりますので、また引き続き、そこのところは一緒にお願いをしたいと思います。

それから事業承継に関しましても、今年度県の方で新たに制度化しました補助金、そちらの方まさに商工連さんに中心になって展開していただいております。そういった中で、まだ具体的なマッチングはゼロというようなお話もありましたが、これにつきましては、県の商工指導団体に金融機関も加わって、様々な取り組みを様々なところで進めているというようなところがあります。そういった関係する機関がより一層連携を密にして、情報を共有しながら進めていくということで、１件でも２件でもその実績が上がってくるのではないかというふうに考えておりますので、そこのところは、また引き続き一緒に取り組みの方お願いしたいと思います。

（髙橋富一会長）
　ありがとうございます。
　「（１）令和４年度の商工労働観光施策の実績について」について、説明と御意見等ちょうだいしました。一旦ここで、この審議つきましては締めさせていただきたいと思います。続きまして、「みちのく観光立県第４期基本計画（素案）について」事務局からお願いします。

（髙橋利明観光・プロモーション室長）
　観光･プロモーション室の髙橋です。着座にて御説明させていただきたいと思います。
　資料の２をお開き願います。みちのく岩手観光立県第４期基本計画の素案の概要について、御説明いたします。
　２ページ目を御覧ください。「１　計画の構成」では、これまでの構成を基本としながら、第４章においては令和５年３月に策定された「いわて県民計画第２期アクションプラン」と「観光立国推進基本計画」を踏まえて整理しているほか、「第２期アクションプラン（地域振興プラン）」を基に圏域ごとの特色ある取組についても併せて整理しているところでございます。
　３ページ目をお開きください。「２　計画の基本的な考え方」では、計画策定の趣旨・役割、計画期間、計画の構成等について記載しております。
　本計画は、「みちのく岩手観光立県基本条例」に基づき、県、市町村、県民、観光関連団体、観光事業者などが相互理解と協力のもと、観光振興に関する施策を総合的、計画的に推進するための基本的な計画として策定するものでございます。
　計画の期間ですが、現行の第３期計画が令和元年度から 10 年後に実現すべき姿を展望して定めた経緯がございまして、今回、令和元年度から令和５年度までの５年が経過したことから、次期計画は残りの期間である令和６年度から令和 10 年度までの５年間になります。
　４ページ目をお開きください。「３　本県の観光を取り巻く現状と課題」では、本県観光をめぐる状況を各種統計データに基づいて整理するとともに、現行計画の総括を行いながら、本県観光の強みと弱み、現状と課題について記載しております。
　個々のデータの説明は割愛いたしますが、2019 年度まで概ね順調に推移していた各種指標が新型コロナウイルス感染症の影響で、2020 年度を境に大きく落ち込んでおります。直近では回復傾向が見られますが、コロナ前の水準に達していないものが多くございます。
　これらを踏まえて、本県観光の現状と課題を５つの観点から整理しております。
　５ページ目を御覧ください。「４　計画の目標」では、第２章で整理した現状と課題を踏まえて、今後の取組方針を５つの基本施策として整理するとともに、目指す姿及び目標値について記載しております。

下段のピンク色の部分が、現行の第３期計画と昨年度末に作成したいわて県民計画第２期アクションプランと整合性を図っている部分になります。

まずは、「地域経済の活性化」の「(2)外国人観光客の誘客拡大」では、ニューヨーク・タイムズ紙「2023 年に行くべき 52 カ所」の２番目に盛岡市が選ばれたこと等を契機に訪日外国人旅行者が増えていることを踏まえ、市場・地域の特性を捉えた戦略的なプロモーションを展開することにより、新たな市場開拓や経済効果の高い高付加価値旅行者の誘客につなげ、インバウンドをはじめとした誘客拡大を促進するとしております。

次に、「(3)魅力的な観光地域づくりの推進」では、観光で稼ぐ力を高めるため、地域の多様な関係者が連携し、データに基づくマーケティング分析を生かした受入体制整備を進め、旅行者から選ばれる観光地の魅力を創造し、消費者目線での旅行商品の造成や、旅行者の動態に合わせた観光コンテンツ開発やルート設定等を行うとともに、三陸の多彩なコンテンツを活用することにより魅力ある観光地域づくりを推進するとしております。

次に、「(4)周遊・滞在型観光の推進」では、市町村や観光事業者等と連携し、県内全域を広く周遊し、長く滞在する高付加価値型の旅行商品造成を促進するとともに、復興道路等の全線開通、新たなまちづくりの進展や地域資源を生かした観光振興を展開してまいります。

最後に、「(5)観光 DX による観光推進体制の強化」として、観光を取り巻く環境の変化を的確に把握し、旅行者のニーズを捉えた施策を展開するため、デジタル技術を複合的に活用しながら戦略的かつ効果的に情報発信を行うとともに、観光サービスの変革や新たな観光需要を創出する地域ＤＭＯをはじめ、地域が主体となった観光推進体制づくりや人材育成などの取組を支援する体制強化を図ってまいります。

また、上段の黄色の部分が、今年３月に国が策定した観光立国推進基本計画を踏まえまして、今回新たに柱立てした部分で、「住んでよし、訪れてよしの観光地域づくり」として整理してございます。「(1)持続可能な観光の推進」では、「環境」「社会」「経済」の３つのバランスの取れた観光地域づくりを推進することで、交流人口・関係人口の拡大に結び付け、国の施策とも連動しながら観光産業を地域の基幹産業へと成長させることとしております。

６ページ目を御覧ください。これまで説明いたしました５つの基本施策を確実に進めていくため、目指す姿といたしまして、『「住んでよし、訪れてよしの観光地域づくり」と「地域経済の活性化」を推進することにより、自然と人、文化と人、人と人をつなぎ、地域社会の好循環を生む観光産業の更なる発展を目指します。』としております。

続いて、計画の目標値の指標ですが、いわて県民計画第２期アクションプランと整合を図っているほか、今回、新たに柱を立てました「持続可能な観光の推進」に関する指標を追加しております。それは、「日本版持続可能な観光ガイドライン」ロゴマーク取得地域数と「持続可能な観光地域づくり」を計画に定めている市町村数となります。個

別の数値設定につきましては、参考資料１の別冊ですが、75 ページ以降に掲載しております。ここでは、説明は省略させていただきます。

７ページ目を御覧ください。「５　観光振興に関する施策」では、第３章で整理した５つの基本施策に基づいて、いわて県民計画第２期アクションプランの内容を踏まえまして、観光振興に関する取組を整理しております。なお、観光振興に直接的に関係する取組だけではなく、三陸振興、震災伝承、地場産業の振興、県産品の販売促進、国際相互理解の増進、経営力強化や交流人口の拡大に加え、文化、スポーツ、農林水産、交通、教育など、観光振興に関する幅広い分野の取組を横断的に整理しております。

加えて、各広域圏において特色のある取組を「地域の特色を活かした観光地域づくり」として整理しております。

８ページ目を御覧ください。「６　推進体制」では、第４章で整理した具体の取組を推進していくために、県、市町村、ＤＭＯなどの各主体が担うべき役割等について記載しております。

９ページ目を御覧ください。「７　策定スケジュール」についてでございます。これまでのいわて観光立県推進会議での議論等を踏まえた素案に関して、現在は、12 月 20 日までパブリック・コメントを実施しているところでございます。併せて、地域説明会を現地開催とオンライン開催を併用して県内２会場で実施しているところでございます。

１月には２回目のいわて観光立県推進会議を開催する予定としておりまして、これまでの意見等を踏まえまして、内容を修正・整理のうえ、県議会２月定例会において最終の計画案を提出し、３月下旬に計画を公表する予定としております。

参考資料１は計画素案の本文でございますが、後ほど御覧いただければと思います。

以上で、説明を終わります。よろしくお願いいたします。

（髙橋富一会長）

ただ今、事務局から説明がございました。委員の皆様方から御発言・御意見をちょうだいしたいと思います。なお、お一方２分程度を目途にお願いしたいと思います。

15 時 50 分に閉めたいと思ってございますので、御協力のほどお願いを申し上げます。

先ほどは順番にお願いしましたが、本日、公務の予定もございますので、最初に倉成奥州市長さんから御発言をちょうだいしたいと思います。

（倉成淳委員）

計画についての説明、ありがとうございました。今日は、臨時記者会見が設定されましたので、もう少しで退席させていただきますが、先ほど話したところに足りないとこがありましたので、そこだけ補足させていただいて、それを計画に色々反映させていただければ良いかなと思っています。

やはり、２大ブランド、国際ブランドとして、「ＭＯＲＩＯＫＡ」・「ＨＩＲＡＩＺＵＭＩ」を前面に出して構成すべきだという話は、内陸のことに限ったことではありません。当然、「盛岡」－「平泉」といった場合には、新幹線での人の動きが中心になると思います。

ただ、ここでカテゴリー別の誘導を作ると、例えば、アウトドアであったり、歴史であったり、それから工芸品であったり、レストランであったり、特産物であったり、祭りであったり、そういうカテゴリー別に盛岡というところから近くのところを誘導する。三陸であったり、県北であったり、平泉の方はそういう形で誘導する。そうすることによって、交流する方が自分でプランを作りやすくなります。

昨日、県南広域振興局と話をしたときに、ワーケーションを実施するのは、交流人口を高めるのに非常に効果があったという話をされていました。つまり、企業誘致で来られた方が、数年間を岩手で過ごすと、その間にワーケーションを経験してもらうだけで、定住率が上がってくるという話です。ですから、そういう訪れてみたいという気にさせるような体系付け、さっき言ったようなカテゴリー別にそれぞれの地区で、今度は盛岡、平泉以外のところの地区が自分たちでストーリーを作っていて、そのストーリーを見てもらうことによって定住したい、移住したい、交流したいという方が増えることが最初のきっかけかなと思います。

やはり、今回盛岡が注目された現象は「黒船」が来襲したような感じですけど、それは逆に非常に示唆に富んだことを伝えてくれた黒船だったと思います。それをうまく活用するようなプランにしていただくのが良いのではないかと思います。

（髙橋富一会長）

事務局から回答をお願いします。

（髙橋利明観光・プロモーション室長）

御意見ありがとうございました。

まさに、私ども今考えているのは、観光をまず切り口として移住・定住まで進められるような施策を作るのが重要だというふうに考えております。そういった中で、今御紹介いただきました、カテゴリー別とかそういった様々な見せ方、具体的な見せ方を今後、私どもも研究しながら、一緒になって進めていきたいと考えております。

いずれ、自分たちでストーリーを作っていくというようなお話もございましたが、それぞれの今、観光といっても昔ながらの観光ではなくて様々な切り口で来ていただいている状況でございますので、おいでいただく方々の求めに応じたものを作っていけるような形にしていくと、そういった中で、そういった方々のストーリーにあっていくようなものを提示しながら、お越しいただくというふうな形で進めて参りたいというふうに思います。

本当に御意見様々いただきまして、ありがとうございました。今後の計画の方にも反映させていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

（倉成淳委員）
よろしくお願いします。

（髙橋富一会長）
市長さん、どうもありがとうございました。

（倉成淳委員）
ありがとうございました。失礼します。

（髙橋富一会長）
それでは、続きまして、委員の皆様方から御意見をちょうだいしたいと思います。
回答につきましては、一括して、事務局から回答していただきたいと思いますので、よろしくお願いします。まず、それでは小山田委員さんからよろしくお願いします。

（小山田浩之委員）
大筋のところでは特にないと思いますけども、例えばこの目標値の設定によって、最終的には観光消費額だと思うのですが、ここはどういう形で、試算されているのか。データの関連性がよく掴めなかったといようなことがありまして、簡単に説明いただければと思います。
あと、大筋問題ないと思いますけども、これから実行計画、詳細計画にあまり時間をかけないで進めていかないと、あっという間に５年間過ぎてしまうのではないかと思います。これは、感想です。以上です。

（髙橋富一会長）
ありがとうございます。続きまして、工藤委員さん。

（工藤理沙委員）
先ほど、観光と絡めて販売のすごくいい機会作っていただいたという話をさせていただいたのですが、ニューヨーク・タイムズさんのこともありますし、八幡平市で言えばハロウ校が出来たということもあって、海外の方が日本の岩手県の工芸に対して、観光施設に長期滞在しながら体験したいという、そういうお話をいただいておりました。
３年前に二戸市さんと日本遺産にも登録されたということもありまして、日本遺産の安比川流域をめぐる漆文化のツーリズム、ツアー商品を毎年、ガイドを養成していただ

きながら進めていただいているのですけれども、それぞれのものづくりをしている工房自体が、岩手県の中では大きな企業さんは少ないので、受け入れ体制というのがまだ全然追いついていなくて、生産して販売している事業所がほとんどなので、観光客を体験で受け入れて、いつも体験商品をつくれるというところまでまだ全然追いついていけていない状態で、工期が来てしまってどうしようみたいな感じが。今、現場は作るのも大変だし、体験の方も対応したいしみたいな状態になっていて、そういうところも県の方でも、手を貸していただければと思いますし、各事業者も、努力しながら、体制を整えて、お客様のニーズにどんどん答えていきたいという思いはありますので、続けて支援はお願いしていきたいと思っています。

（髙橋富一会長）
　ありがとうございます。それでは次に、佐藤智栄委員さん。

（佐藤智栄委員）
　私は、この魅力的な観光地域づくりの推進ということで、今まで観光と言えば、行って、見て、食す、楽しかった、というだけだったと思うのですけども、岩手の資源を有効に使ってということを考えると、陸前高田市にもキャンプ場ができたりとか、先ほど奥州市の市長さんがおっしゃったように、アクティビティとして、アウトドア系のものをやるということもそのとおりで。
　実は、私も子どもの家族とかと旅行に行くとき、「グランピングしたいけど、どこに行ったら良いかね。」とか、「どこに行ったらいいのか分からない。」とか、やはり、どっちかというと大人も子どもも観光客も「体験」という切り口で。
　旅行で宮城に行ってきたとき、牡蠣の収穫体験をしてきたのですが、皆したことなくて、「こうやって牡蠣って採れるんだ。」、「こういうの三陸でもないのかな。」ということを体験しまして、観光ってやはりこうゆう体験があった方が良いねと。例えば、ワカメとか。私たちは当たり前のように、メディアで「そういう時期なんだね。そういうの食べたいね。」と見るのを、アクティビティとして体験ということをすると、盛岡に１泊、沿岸でも１泊、平泉でも１泊という感じで。広い県土を持った岩手県の観光ということは、食べるも体験も見るのも全部、１週間くらいゆっくり滞在していただければ、十分に堪能して自分たちの国では経験できないものが三陸とか、あるいは県北の伝統工芸というところにあるのではないかなと。そういうものを押し進めた体験型でやると、また少し裾野が広がるのかなと思います。

（髙橋富一会長）
　ありがとうございます。では次に、佐藤康委員さん。

（佐藤康委員）

私も、御説明いただいて、そのとおりだと思います。特に、先ほど申し上げたとおり岩手県自体の知名度は上がっておりましたし、７日から 10 日まで、私も台湾の方に東北観光推進機構さんの方でお邪魔いたしまして、１時間ほど県のブースに立っていた時に、大谷君の質問とか、あまちゃんが好きで久慈に行ったという子とか、非常に台湾の人たちは岩手に対してフレンドリーです。同様にその前の９月に行ったタイでも、岩手の雪を見てみたいというのがすごくありまして、これからそういう形で、今回計画にも載せていただいた体験であるとか、そういったものも含めれば、まだまだ集客する力を持っていると思います。

それと余談でありますけれども、我々宿泊業の方では、昔からお客様に提供するものの中で、お料理を乗せる漆器というものを１番大事にしております。それで古い旅館さんになりますと、明治、幕末の頃からのお膳を大切に使ってらっしゃるところがありますけれども、なかなか日本漆器がこれだけ減少していることもあります。

最高級というのは、やはり浄法寺でございます。国宝や重要文化財の下塗りから上塗りまですべて浄法寺ということを聞いております。何とか我々もその旅館文化を守るためにも、こういった漆器であるとか、陶器であるとか、器であるとか、そういったものまで協力してやるということを各団体で申し上げておりますけれども、ぜひ、そういうものに関しましても文化の継承、先ほど工藤委員の方からもお話ありましたけれども、我々、旅館の方で使っているものも必要だと思っておりますので、併せてお願い申し上げます。

（髙橋富一会長）

ありがとうございます。続きまして、新田委員さんよろしくお願いします。

（新田義修委員）

岩手県立大学新田と申します。いくつかコメントしたいと思います。

まず１つ目は、奥州市長からあった移住・定住についての話に繋がるのですけれども、実際に移住・定住する時に必要なものがあと２つあると思います。

１つは、子どもの教育です。首都圏から来るときに、子どもの教育、大丈夫かなというのは私自身も含めてですけど、必要な配慮だと思います。

もう１つは、医療サービスだと思います。痛くなったり、何か怪我をしたときに、首都圏と同じとは言いませんけれども、必要なところにちゃんとインバウンドの人も含めてですけれども、いざとなった時に対応できるかというのは、１回目来るときにはあまり気にしなくてもいいかもしれませんけれども、２度、３度来てくれるということを考えると、そうしたものも、この施策から外れてしまうかもしれないのですけれども、必要になると思っています。

観光については、先ほど観光協会から御指摘があったとおりで、花巻空港だけではなくて、成田、羽田から仙台を経由して盛岡に行くという、最初は多分それも考えていたと思うのですけれども、今まさにそうしたものが改めて必要になってきていると思いますので、その人たちが来たときに、バスで移動するのか、盛岡駅でレンタカーを借りるのかとか、団体旅行ではなく、個人なり家族で来るというふうに観光のスタイルが変わっていると思いますので、既存のやり方をそうした細かい方法に変えるとしたときに、どんなことが必要になるのかということをぜひ協力していただきたいと思っています。

３つ目は、防災に関わる震災遺構に関わる情報というのは、観光という意味で、岩手県こそもっとやるべきだと思っています。陸前高田市に立派な施設があって、岩手県が運営しておりますけれども、この話の中に一言も出てこなかったし、計画に入っていない。でも、県外なり海外の人はよく知っているし、そこであれば行くべきだなと思ってもらえる情報、あるいはコンテンツであると思います。遠野市にも大事な資料館があるのですけども、意外と知られてない、遠野市役所のすぐ近くにあるのですけど。

そうした震災遺構というのが、これから先の人たちにとってもすごく大事で、岩手が伝えるべきだと思うので、ぜひアクションプランのときでも構いませんので、いわゆる観光ということだけではなく、岩手ならではの「震災」、ぜひテーマに入れて欲しいなと思います。

最後は、漆器、陶器の話なのですけども、これは小学生たちにもっと触れてもらえる機会を作ってあげないと、大人にいくらアピールしてもなかなか伝わらないと思います。例えば、輪島塗というようなことを考えたときに、彼らは地域の中でプライドとして持っていますけれども、岩手県も同じようなことをできると思うんですね。ぜひ、子ども向けのサービスを提供できるような機会を作ってもらいたいなと思っております。

（髙橋富一会長）

ありがとうございます。では次に、早野委員さん。

（早野由紀子委員）

全体的に非常に良いと思っております。岩手の特徴は、やはり何といっても広大さですので、盛岡や平泉にいらした方がどのようにして次の目的地にたどり着くのか、また、どのようにして計画を立てていくのか、そのためのコンシェルジュのような役割をもっときちんと基盤を立てて、構築できていけば、より良いものになるのではないかなと思っております。

この計画の方もスピード感を持って、ぜひ進めていただきたいなと思っております。よろしくお願いいたします。

（髙橋富一会長）
　ありがとうございます。それでは、藤村委員さん。

（藤村文昭委員）
　藤村でございます。あまり観光については詳しくないので、余計なことは言いませんが、この計画を見ると素晴らしいと思います。ただ、資料に関して先ほど指摘がありましたが、正しい指標なのか、私には評価できませんが、少し確認してもらいたいと思います。
　思うことが１つあります。今、東屋さんに行って蕎麦を食べたいと思っても、旅行客が多くてなかなか食べられない現状があったり、ぴょんぴょん舎も孫を連れていっても入れない現状があったりして、地元の人間として大変危惧しております。今後の観光の課題だと思います。
　このデータの中で、13 ページにあるのですが、おいしいものを食べる期待度が高いとなっていました。ですから、旅はやっぱりそうあるべきだと思いますので、ぜひ、たくさん人に来ていただいて、おいしいもの食べるというような仕掛けが必要だと思います。今、流通が発達していますので、どこにでも出荷できるのですが、それをしないで、来ていただいてアワビを食べてもらうとか。そういう仕掛けがあってもいいのではないかなという感じがします。以上です。

（髙橋富一会長）
　ありがとうございます。私からも少し発言させていただきます。
　まず、観光を推進するためには、今、早野委員さんもおっしゃいましたけども、盛岡に来たからとりあえず八幡平に行ったという感じになりますと、八幡平に汽車で行くと大更駅、バスもあるわけですけども、今、地域でタクシーが少なくなってきている。それで、行きたくても八幡平に行けない。そういう状況があると思います。
　やはり、公共交通とも絡んでくると思いますけども、２次交通のあり方はどこの地域でも課題ではないのかなと、その辺も含めて、この交通体系のことも観光の１つの考え方として入れてもいいのかなという考え方を私はしております。本当に色々インバウンドにしろ、国内の観光にしろ、どういうふうに次の場所に行ったらいいのだろうかというのは結構あると思いますので、その辺も計画の中で検討してもらえればなと思います。
　もう一つは、ニューヨーク・タイムズの 23 年の行くべき 52 か所、この２番目に盛岡市がなったわけですが、やはり、盛岡市は佐藤委員さんのおっしゃるとおり、観光需要については、インバウンドを含めていいと思いますし、それから花巻なり平泉なり、あえて八幡平にも行って来られる方もありますし、ハロウスクールも含めた形で。そして、また、三陸沿岸は復興の形で、観光の需用が結構あったのが今おそらく落ち着いているのかなという気がします。そういうことから、盛岡がこういう形で 52 か所の２番目に

選ばれたわけでございますので、これを県内全体に、県北含めてあらゆる県内に波及できるような観光施策の方針を立てていただきたいなと、私からの御意見としてお願い申し上げたいと思います。

それでは、事務局からの御回答をよろしくお願い申し上げます。

（髙橋利明観光・プロモーション室長）

観光・プロモーション室の髙橋です。

小山田委員から目標値の設定のお話がございました。目標値の設定につきましては、資料がありまして、76 ページのところを開いていただきますと目標値設定の考え方というのがございますが、ここに細かく書いてあるのですけど、基本的には国が設定している数値をまず土台に置いて、それにプラスアルファでさらに上げているという位置付けにしておりますので、かなり目標を高く設定しております。それに向かって頑張っていくということで。実は、当初、目標値については前の委員会とか、会議の場でも少し低かった部分もあったのですが、全部上げていこうという話がありまして、全部上げさせていただいて、皆様の方には御覧いただいているような状況になっておりますので、そのような形で進めているところございます。

いずれ、関連している部分がそれぞれありますので、特にも外国人に来ていただくだけじゃなくて、今は国の方も単価の方にまで目を向けていくという形進めておりますので、それに沿った形で設定しております。

続きまして、工藤委員からの話については、ハロウ校とか、工芸品関係とかいうお話でございまして、まさしく、県の方でも観光に来ていただくだけじゃなくて、先ほども御説明しましたとおり、県産品の販路開拓と一緒に絡めて、こちらの計画の中にも関係する部署から情報を入れさせていただいているところでございまして、まさしくそういった視点が大事だなと考えているところでございますので、そういったところも、委員お話しのあった点も盛り込んでいきたいというふうに考えております。

そして、佐藤智栄委員からのアクティビティという点でのお話でございましたけれども、これについては参考までですが、この厚い資料の 33 ページを見ていただきたいのですが、こちらの「かまいしＤＭＣ」の持続可能な観光に関する取り組みということで、実は釜石にあるものを選定しながら、漁船クルーズは観光事業者、漁業者、大学、体験型観光コンテンツという形で組み合わせ作っていると。そして、また、釜石ジオ弁当は観光事業者、農林水産業、飲食業、地産地消による地域づくり観光地域づくりということで、お弁当を買っても捨てていただくような形だったので、地元の間伐材を使った形で地元の林業者も一緒に協力してやる、地元にあるものを見直して、そこにあるものを活用して、こういった形で体験していくということだったので、私どももこういったものは、今まで考えていなかった部分もありましたので、ただ弁当を買って来ればいいというのではなくて、地元にあるものをできるだけ生かしていくという取り組みでしたの

で、そういった視点は大事だと認識しております。まさに、そういった形でアクティビティとか、そういったものを進めていく、漁船クルーズもそういった形で、ただ単に漁船に乗るだけではなく研究も１つ加えていくということでしたので、そういったことも進めていきたいと思っております。

続きまして、佐藤康委員からお話がありました、台湾の関係もありましたし、漆器を大切にしているというお話についてでございます。まさしく、食事は見て楽しむ、触って楽しむ、そして食べて楽しむという観点もございまして、佐藤康委員のところでもそういった提供をされていると思うのですけれども、そういった取り組みを、また、県産品を活用していただくという中で、岩手に来て良かったなと思えるような旅館、ホテルがさらに増えていただくように期待しております。

そして、新田委員から震災遺構のお話がありましたけれども、こちらについては資料 42 ページのところの⑤の多彩なコンテンツを活用した三陸振興ということで、教育旅行で来県した旅先として、この震災、防災教育とか、そういったことをテーマにしながら進めていきましょうという点。２つ目に伝承館を活用しながら、教員の現地研修会の開催とか、先ほどの先生方が知らないといった部分を盛り込みながら進めていこうと。そして、３つ目のところでも、陸前高田の野外活動センターも活用しながら防災教育とか各種研修のプログラムを実施していこうということで、震災遺構は非常に重要でございますので、今後もそういった取り組み進めていきたいと考えているところでございます。

そして、早野委員からありました旅のコンシェルジュのようなもの。こういった視点を私どもも大事だなと思いましたので、そういったことを取り組んでいる事例が何かあれば盛り込んでいきたいと思っております。それから、旅の調整するのは旅行会社さんとなっておりましたけれども、地域のＤＭＯであったり、そういったところが今後こういった形で地域のあるものをどんどんＰＲしていくという視点も大事かなと思いますので、そういったものも先ほど最後に話のあったスピード感を持って進めていきたいというふうに思います。

そして、藤村委員からありました、おいしいもの食べる仕掛け。まさしく、これ大事でございますので、まずもって非常に素晴らしい県産食材を活用したもの、そして、また料理を合わせて、食の匠をはじめ、様々な人たちと協力して進めていきたいというふうに思います。

最後に、高橋委員からお話がありました、２次交通の問題。これは、私どもの１番の課題でもあるのかなと思っています。特に、広大な県土でございまして、震災もあって沿岸については 30 分ぐらい短くなったり、道路が良くなりましたけれども、そういった中で、海外から来るお客様とか、国内から来るお客様で、２次交通がしっかり整備されていかないとそれ以上先の方に進めないということもございますので、そういった点も展開をどうやって進めていくかということも非常に大事な取り組みでございますの

で、私どもの方も２次交通の記載も含めて、対応していきたいと思っております。
　やはり、インバウンドで誘客に行きますと、２次交通どうなっていますかという話はされます。他の県では、かなりお金を出してやっているようですけど、お金を出すだけではなくて、何か取り組む方法はあるかと思います。
　あと、２つ目にありました波及効果。盛岡に来ているお客様を波及効果のあるようにというお話でございまして、まさに、その部分が私どもの課題でございますので、そこについて、具体的な取り組みも色々ありましたが、いずれ、地域の皆様と課題解決しながら進めていくことだと思うので、現地の声を聞きながら、どういったアプローチができるのかという点も踏まえながら進めていきたいと思います。なお、この件に関しましては、今年度、各市町村の課長さんと意見交換する場があって、首長さんから呼び込むことを指示され、そのときも各市町村の各課長さんたちから、どうしていったらいいのかというお話を皆さんから受けたこともあって、その際には、盛岡駅の取り組みであったりとか、できる限りパンフレットを置いたりだとか、そういったところから１つ１つ情報を出していくということから始めていきましょうという話をさせていただいたところでございまして、まさに、今年がＦＩＴの元年だと私も思っておりますので、そういった中で様々な取り組みを新たに今までの団体旅行でなくて、個人旅行のお客様の取り組みに向けて、受入体制の整備をしていきたいと考えております。私の方からは、以上です。

（畠山英司産業経済交流課総括課長）
　産業経済交流課の畠山でございます。今、髙橋室長から委員の皆様の質問に対して総じて回答したのですけども、若干被る部分もあるかと思うのですが、補足したいと思います。
　まず、工藤委員からお話いただきましたが、やはり、インバウンドと言いますと、これまでのように１泊して、駆け足で東北各県を巡ってしまい、海外のお客様はなかなかお金を落とさないというところがあったと思います。ところが、特にも欧米のお客様というのは、長期滞在の傾向がございます。例えば、漆器を作る体験のために一定の期間滞在しながら、作品を完成させて、長期滞在してお金を落として、でき上がった作品を持って帰るとか、そういったツアーがたくさん岩手でも増えればいいなと思います。委員がおっしゃった、なかなかその受入体制の方がそこに追いついていかなくて、嬉しい悲鳴の状態というところもあると思いますので、県の方でも、県、それから二戸市さん、八幡平市さん、関係機関、国といったところで、実務者の連携会議を設けていますので、そういったソフト面のサービスのあり方を模索して、何かサポートを考えていきたいと思いますし、こういうチャンスをぜひ生かしていきたいと思ってございます。
　それから、佐藤委員がおっしゃった、例えば、沿岸の滞在を促すために牡蠣の収穫作業の体験であるとか、岩手は三陸の水産資源の宝庫ですので、宮城に勝るとも劣らない、

そういう体験メニューをたくさん作れると思います。そういうところで、関わる人の裾野を広げるというところを生業としても広げていけると思いますし、こちらに来て何日か滞在したいという、それだけのメニューが岩手の三陸は作れるというエリアだと思います。

それから、新田委員からお話のありました、漆器、漆。岩手の漆というのは、御承知のとおり国産漆の７割のシェアを有しているのですが、まだまだ、おそらく知らない生徒さんも多いと思いますので、まずは地元の若い人たちも含めて、岩手の漆の持っている力を、それだけのものがあるのだという普及というところを地元の関係者と一緒にやっていきたいと思っております。

藤村委員からお話ありました、食。来てもらって食べることが大事だろうと、そのとおりだと思いますし、私どもの方で地場産品の輸出促進もやっていますけども、輸出してそれを向こうで手にして、食べる、あるいは使うということで、岩手を知ってもらう。それを知った人たちが岩手に来るという循環もあります。こっちに来た人が初めて、たまたまツアーの途中で岩手にも寄って、岩手のものを食べる、岩手のものを使う、岩手のファンになって帰ると。また、それが口コミでというのが好循環に繋がるという。やはり、「モノ」と「旅」は一体だと思いますので、そういう好循環をどんどん回していくということを、関係機関連携してやっていきたいと思います。

（髙橋富一会長）

ありがとうございます。只今までは、与えられました２つの議題について、皆様方から御意見、御提案をいただきました。それでは次に進みますが、次の「その他」の方でございます。皆さんから何かございますでしょうか。この議題以外でも、何かお話したいことがあれば御発言をちょうだいしたいと思います。

佐藤康委員さん。

（佐藤康委員）

この場では、発言するものではないかもしれませんけれども、一応、聞いていただきたいと思いまして。

２週間ほど前、私どもの会社に沖縄から派遣で来ております女性が脳梗塞で倒れたんです。そのときに、救急車をお願いしましたが、繋の消防署からすぐ来たんです。ところが、受け入れる病院が決まらなくて、脳梗塞だというのは救急隊も分かったので、やはりすぐ近くが良いというので、鶯宿温泉病院、つなぎ温泉病院、ことごとく断られました。中央病院にもかけたのですけども、それも断られて、結局 40 分は大観から出ることができない状態で、最後は救急隊の方が少し声を荒げて、もうどこも決まるところがないから何としても、前に断られたけど頼むと言って、中央病院さんに連れていってもらったのですけども。まず、どちらにお住まいですかと聞かれたそうです。どこの病

院さんでも。そのときは、沖縄と答えました。沖縄から来られた社員さんですから。
　別にエリアで断られたわけじゃないのかもしれませんけれども、これが、一般の宿泊でお泊まりのお客様だとしたら、大騒動になってしまうんですよね。ですから、その辺りのところも、ここで解決しようがないお話ですけれども、現実として観光に直結することでございますので、一応まず御報告のみさせていただきたいと思います。

（髙橋富一会長）
　ありがとうございます。救急だと病院も受け入れるところがなかなか決まらないようですもんね、救急車もね。
　そのほか、ございませんでしょうか。それでは無いようでございますので。以上で議事を終了させていただきたいと思います。
　最後に、岩渕部長から御発言をちょうだいしたいと思います。部長よろしくお願いいたします。

（岩渕商工労働観光部長）
　本日は、本当に貴重な御意見いただきまして、ありがとうございました。
　今日いただいた御意見につきましては、今後の当部の施策、あるいは観光の計画、今後の最終案までに、十分に反映させていきたいと考えております。
　今日話があった中で、参考になることとして１つ、岩手の産業、なかなか理解が進まないというあたりですけども。私も今３年目になり、去年辺りからなのですが、岩手県を紹介するときに、観光も当然持っていますので、やはり観光面から紹介するのが普通だったのですが、アクアとかヤリスは岩手で作っていますよとか、今度はレクサスのコンパクトカーも岩手で作るんですよとか、あるいはＷＢＣで日本が優勝したときには、大谷翔平選手がヌートバー選手にプレゼントした時計は、盛岡のセイコーで作っている白樺モデルですよとか、写真出しながらですね。そういうプレゼンをしてみると、意外とこっちの方がいけるかなという、そういうのもぜひ活用していきたいと思っています。
　今日も教育旅行の話が出たのですが、教育旅行はコロナの５類移行に伴って、今度また県外からの誘致をしていかなければいけません。もちろん、これは沿岸に入るのが多く、震災の伝承はとても大事なのですけれども、せっかく首都圏からも入って来ているのであれば、産業のことも少し見てもらいたいなと。そして、こういう働く場があるんだよと。首都圏とそんなに変わらないぐらいの賃金水準の企業もありますよというようなことも積極的に発信して、それをまさに移住・定住に結びつけていくようなこともしていきたいなと考えております。
　それから、もう１つが、県で産業技術短期大学校があるのですが、矢巾と水沢にあります。それと、千厩、宮古、二戸には高等技術専門学校というのがあるのですが、今ここの学科とかの再編に着手しようとしています。産業技術短期大学校は、平成に入って

間もなくできていると思うのですが、すごく働く場所がなくて、それできちんとした技術を身につけないと就職ができなかったということで作った学校でございますが、今、逆に人手が足りない足りないと言っている時代でございますので、やはり人材、産業技術大学校とか県の機関も、人材確保に困っている企業のニーズにきちんと応え得るようなものにしていかなければいけないのだろうなと、そういう意味では、建物を教える人とか機械とかも、企業さんの協力を得ながら、一緒にやっていけるような、そういう形で作っていけないのかなということを、今内部で話をしているところでございます。そういう形も含めて今後しっかりと産業人材を育成して、自動車 30 年で、半導体 50 年というのですが、キオクシアさんが来て間もないので、しっかりとした産業の基盤を作っていきたいと考えております。

また、観光面でございますけれども、様々御意見いただいていて、取り上げていただいたＤＭＯの話でございます。「かまいしＤＭＣ」の話をいろいろしていますけれども、今日お話しを聞いて、私も感じたのですが、「かまいしＤＭＣ」さんの取り組みとかはもう完全にその観光というのは、１つの切り口であって、地域振興そのものになってきておりますので、バスの問題、タクシーの問題含めてですね、あとは林業体験とか、漁業だけじゃなく様々やっておりますので、そういうものを、観光というのを視野に入れたまちづくりを進める団体という感じがしておりますので、特に観光と、あと移住・定住なんかはもう果てしなく守備範囲が広がっていくような状況でございますけれども、しっかりとそこで萎縮せずにというか、どんどん広げるような覚悟でやっていかなければいけないということを感じてございますので、今後も引き続き、様々な御意見をいただければと思います。本日は、どうもありがとうございました。

（髙橋富一会長）

岩渕部長、ありがとうございました。それでは、以上をもって議事を一旦閉じさせていただきます。委員の皆様方には、御協力を賜り、ありがとうございます。

では、これからは事務局にお返しいたします。

（齋藤深雪商工企画課長）

髙橋会長、議事の進行ありがとうございました。委員の皆様も、御多用のところ御対応いただきまして、本当にありがとうございます。

以上をもちまして、本日の会議は閉会いたします。本日は、誠にありがとうございました。